

(3) 令和5年度の学校評価

本年度の重点目標 (評価項目)		①	キャリア教育の推進	
		②	安全・安心な学校づくり	
		③	授業力・専門性の向上	
		④	豊かな心と健やかな体の育成	
		⑤	授業・行事の充実	
		⑥	センター的機能の充実と理解促進	
		⑦	開かれた学校づくり	
自己評価				
担当	評価項目	目標・具体的方策	評価	結果と課題
幼小学部	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思の伝達や、自己表現などの基礎的な力を身に付け、適切な方法で主体的にかかわる力の育成についての指導の内容や方法の在り方を工夫する。</li> <li>交流及び共同学習や校外学習、オンライン授業、行事など、体験的な活動を通して、人にかかわる機会を場面を多く設定する。</li> <li>自分の気持ちを上手に伝えることの良さがわかるように、適切な方法を身に付けられるように支援する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚部発表会、お話し会、岡盲クエスト、文化祭等発表の場を活用しながら、大勢の人前で話す体験や他者とかかわる機会を設定した。校外学習等では、積極的に質問する場面もみられた。</li> <li>交流及び共同学習では、普段関わらない他校の児童とも積極的に関わることが出来た。また、居住地校交流や、地域の保育園との個別交流等でも、主体的に他者とかかわる場面が多く見られた。</li> <li>お互いをよく知っている関係性の中で、それぞれの方法でよりよくかかわる場面は増えている。高学年のリーダーシップによるところも大きい。次年度以降も友達を意識したかかわりを継続してほしい。</li> </ul>
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェックシートを使って自分の個性を理解し、問題意識をもち、具体的な目標を決め活動に取り組めた。チャレンジ体験では、活動内容をまとめ発表し、そこで目標を達成できたかを自己評価することを通して、自らの成長を感じられた。</li> <li>個々の実態や障害の状況に合わせてICT機器の利用に必要な基本的操作技能の習得に努め、基本的な操作はできるようになりつつある。しかし、授業等でICT機器を有効に活用している場面は弱視の生徒に限られていることが課題である。</li> </ul>
中学部	① ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人のニーズや実態に応じ、進路指導や行事に取り組み、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>ICT機器を障害者支援アプリやアクセシビリティ機能を利用して活用できる能力を育み、ICT機器を活用した授業の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の様々な場面において、生徒同士で協力したり意見交換したりする場面を設定している。特に文化祭の舞台発表やコーナー企画では、生徒同士で相談し、役割分担をしながら自分たちで作り上げることができた。一方で、言葉でのコミュニケーションが難しい生徒の自発的な表現をどのように引き出していかは、今後も工夫が必要であり、引き続き課題として高等部全体で取り組んでいきたい。</li> <li>年間を通して、一部の授業で他校とのオンライン授業を行っている。今後、他の教科でも取り入れていけるよう学習効果や課題点を整理して、来年度は高等部全体で年間計画を作成し、取り組んでいきたい。</li> </ul>
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の中で協力したり、意見交換したりする場面を多く設定することで、周りの状況を的確に把握したうえでの自発的な言動を多く引き出すようにする。</li> <li>オンラインでの授業や交流を積極的に行い、より多くの人と関わることのできる機会をつくる。</li> </ul>
高等部	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で文化的行事に取り組み、幼児児童生徒・職員が積極的に参加することができるようにする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務からだけでなく、各係や児童生徒会から情報発信をし、学校全体で行事に取り組む雰囲気作りができた。</li> <li>行事を円滑に運営できるよう、職員の役割分担を明確にして体制を整えることができた。</li> <li>役割分担について、個人に負担が偏らないように、丁寧に検討する必要がある。</li> <li>情報発信の手段について、内容に応じて伝わりやすいような工夫をする必要がある。</li> <li>実施後の反省を速やかに取りまとめる。</li> </ul>
総務	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等における授業力向上への取組を継続させる。</li> <li>令和6年度から実施予定の学習評価の2期制の円滑な実施にむけて、年間計画や評価方法等について周知徹底に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2学期に校内授業参観週間を実施することで、担当教科の指導力向上につなげ、他教科や他部の様子を知る機会となった。今年度の取組の効果や方法等についてしっかりと検証することとで、次年度に向けて方向性を示すことができた。</li> <li>学習評価の2期制の実施に向けて、令和6年度の学校行事について、時間に余裕をもって検討することができた。</li> </ul>
			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡盲クエストを実施することで、各発表グループにおいて児童生徒が主体的、対話的に取組を進めることができてきている。次年度は、岡盲クエストで設定したテーマを基軸にさらに各教科等横断的な視点で授業を組み立てられるようにしていく必要がある。</li> </ul>
教務	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等における授業力向上への取組を継続させる。</li> <li>令和6年度から実施予定の学習評価の2期制の円滑な実施にむけて、年間計画や評価方法等について周知徹底に努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2学期に校内授業参観週間を実施することで、担当教科の指導力向上につなげ、他教科や他部の様子を知る機会となった。今年度の取組の効果や方法等についてしっかりと検証することとで、次年度に向けて方向性を示すことができた。</li> <li>学習評価の2期制の実施に向けて、令和6年度の学校行事について、時間に余裕をもって検討することができた。</li> </ul>
			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡盲クエストを実施することで、各発表グループにおいて児童生徒が主体的、対話的に取組を進めることができてきている。次年度は、岡盲クエストで設定したテーマを基軸にさらに各教科等横断的な視点で授業を組み立てられるようにしていく必要がある。</li> </ul>
教務	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科等横断的な視点に立った教育活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを実現する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡盲クエストを実施することで、各発表グループにおいて児童生徒が主体的、対話的に取組を進めることができてきている。次年度は、岡盲クエストで設定したテーマを基軸にさらに各教科等横断的な視点で授業を組み立てられるようにしていく必要がある。</li> </ul>
			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科等横断的な視点に立った教育活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを実現する。</li> </ul>

生徒指導	②	・不審者対応マニュアルを改訂し、それを基に、不審者対応訓練を実施し、安全、安心な学校づくりに努める。	A	・不審者対応訓練を年間4回(現職研修含む)計画し、全てを計画どおり終えることができた。毎回の訓練の反省を生かし改善を図り、次回の訓練に反映させることができた。4月に改訂した不審者対応マニュアルに沿って概ね対応できた。特に4回目の訓練では、不審者が校舎内に侵入した場面を想定した訓練ができた。今後は、不審者の情報の伝達・共有方法(職員間、警察)をより円滑に行いたい。
進路指導	①	・本校幼児児童生徒居住域の外部関係機関と連携しながら進路指導に関する教員研修を行い、進路指導の向上を図る。 ・本人、保護者と教員間で、希望進路に対する課題等を共通認識し、進路実現に向けて実習に取り組む。 ・各家庭の進路希望やニーズを具体的に把握し、広い視野から適切な判断ができるための情報提供を行う。	B	・進路指導に関する現職研修では、外部関係機関と連携して研修を行った。研修後のアンケートでは、ほとんどの職員から、進路指導に関する知識が深まったとする評価を得ることができたものの、更に個々の教員が必要とする情報を提供できるよう、研修内容を工夫していきたい。 ・中高等部の生徒、保護者に進路相談を行い、各家庭の考えやニーズを具体的に把握することができた。ただし、広い視野から進路を適切に判断するため、今後も相談を重ねる必要のある生徒・保護者もいる。 ・進路に関わる情報提供については、保護者アンケートから、まだ十分でないという評価もあった。今後も進路情報「DREAM」や学校ホームページ等を使い、生徒・保護者が読みやすく、より個に沿った内容の情報発信に努めたい。
保健体育	② ④	・定期的な安全点検や感染症対策を含めた清掃活動を実施し、安全・安心な学校生活を送れるようにする。 ・食育を意識した学校給食の充実を図る。	A	・職員の美化活動を定期的に行い、整った環境作りを行うことができた。また、安全点検により、危険箇所を担当者により確認してもらうことで、環境の改善に努めることができた。 ・給食週間では、調理員への感謝の気持ちを伝えるとともに、岡崎市保健所に依頼して、食材のルートや食品の摂り方など、食育に関する出前授業を依頼し、食に関して興味をもてるようにした。また、食品の高騰が続き、食材の確保が困難な中、食材の無駄を軽減させるため、欠食届締切日の再検討をした。
教育情報	③	・学校が保有している機器等を職員に紹介し、授業に活用できるように積極的に利用していく環境を整える。	A	・イージータクティクスで表や図がどのように表現されるのか、それを利用して職員室内の配置図等ができることをプリントにまとめてもらって周知できた。幅の設定が細かく、多く取り入れてもらうためには更なる働きかけが必要と思われるため、今後も実践例などを紹介していきたい。 ・ワードとエクセルのアドインで墨点字が入力できるものを各パソコンに導入し始めることができた。
	⑦	・ボランティアの利用や行事の内容、新着の書籍、録音図書等を児童生徒や保護者に案内する。	A	・便りや掲示を用いたり、読書会や図書の寄付の贈呈式を行う中で児童生徒や保護者に案内していくことができた。寄付本は、本棚も寄付していただけたので、そこに集約して借り手によくわかりやすいように配置を工夫できた。
自立活動		・研修において、外部講師を活用した研修会を実施する。	A	・外部講師を招いて、専門性向上研修を実施することができた。研修後のアンケートから、各職員の専門性向上に十分役立つことができた判断できる。また、グランドデザインの反省からも、同様の効果が得られたと考えられる。今後は、今年度外部講師から助言いただいた内容を職員間で随時共有できるような体制等について検討していく。
理療科	③	・専攻科理療科1年生における鍼実技試験の出題内容と評価方法を見直し、第三者評価に反映する。	A	・はりの刺入深度など基礎的な手技について、生徒がどの段階で何ができている必要があるかを検討した。今年度の授業担当者から提案があった評価項目を用いて第三者評価を行い、評価基準や指導内容について教員間で合意が得られた。今後は仕事の手際や全体の流れがよくなるような指導についても検討していく。

寮務部	④	・寄宿舎と学校のつながりを意識することで、舎生を包括的に指導できるようにする。	A	・寄宿舎と学校間の連携については、学期毎の保護者懇談や寄宿舎での生活目標の設定など、担任と指導員が連携を取りながら日々の指導を行うことができた。 ・舎生が主体となって夏のフェスティバル、冬のお楽しみ会の参加を学校職員に呼びかけることができた。その結果、通学生の保護者も参加をいただき親睦を深めることができた。

評価	A	十分満足
	B	ほぼ満足
	C	要検討
	D	大幅要検討

学校関係者評価を実施した主な評価項目	保護者や地域、関係諸機関に対して分かりやすい情報伝達に努める。
自己評価結果について	自己評価結果は、ほぼ満足のいく評価である。保護者アンケートや学校関係者評価委員会での評価とほぼ一致している。
今後の改善方策について	分かりやすい広報や情報提供を一層進めるとともに、教育活動を素早く広く発信していく。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	学校と保護者の連携が充実した教育活動を展開するために欠かせない。P T Aの行事に多くの保護者が参加してもらえるとよい。体育館への冷暖房設置はとてもありがたいと思う。子どもたちにとって良い環境で存分に学んでほしい。 先日新聞に掲載された視覚障害学生の記事を見て、初めて様々な支援機器があることを知った。情報発信を通して盲学校を今後も知ってもらいたいと思う。 具体的な成果の報告を聞くことができ、安心した。多くの視覚障害学生に盲学校を選んでほしいと思う。現在の取組をぜひ継続してほしい。児童生徒数減少に伴い、教職員も減少すると思うが、クオリティを保てるように工夫して行ってほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	P T A会長、同窓会長、地区総代、盲人福祉関係者 大学教員 令和6年2月9日